

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者・スタッフ・家族の意見も取り入れて、グループホームの機能・役割を理解した上で理念を創り上げた。地域生活の継続を理念にも謳っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念実現のための一日の行動計画を立てている。毎月のミーティングでも理念実現に向けて、具体的な成果をイメージし支援方法を検討している。	○	管理者及び職員は、誰に対しても理念を具体的に分かりやすい言葉で説明できるよう、理解を深めていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居相談時及び入居時に、家族そして御本人にグループホームひだまりの理念を説明している。また、地域交流の場でグループホームの役割などを伝えている。	○	もっと地域の方にグループホームを知っていただくために、広報誌などを作成し活用していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事や清掃活動に入居者と共に参加している。その際に簡単であるが、ホームの簡単な説明を行っている。散歩の時も、挨拶は欠かすことなく行っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で行われる行事や運動会には必ず参加している。参加だけでなく準備を手伝う等、積極的に関わりを持つようになっている。また、近隣の保育園との交流も積極的に行っている。	○	職員レベルでなく、入居者が中心になれるよう付き合いの範囲を広げて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の学校よりホーム見学や実習生を受け入れることで、認知症高齢者への正しい理解が得られるよう、分かりやすく説明を行っている。	○	地域の方が気軽に尋ねやすいホーム作りを検討中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	テキストブックを事前に購入して自己評価及び外部評価の理解を深めた。また、スタッフで勉強会を開催し、制度の意義を確認しあった。実際に自己評価したことで日々の支援方法に変化も見られ、その成果をスタッフ同士で確認しあっている。	○	今回が初めての外部評価となるので、結果を元に更なるサービスの質向上に努めたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営促進会議の早期開催に向けて準備中である。入居者・家族・行政・地域の意見を運営に活かし更なる質の向上ができるものと期待している。	○	準備が整い次第、早期に運営促進会議を実施していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の行事(敬老会)等に参加・推進委員会の情報提供及び意見の上申・福祉大会での事業内容の説明・介護支援専門員連絡会への参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会での学習及び、パンフレットを利用して制度の理解に勤めている。現在、制度が必要な入居者がいないため制度の活用までには至っていない。	○	制度利用の必要な状況になれば、関係機関に早めに相談し、活用していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い高齢者虐待防止法に付いて学ぶ場を設けている。スタッフの職務上のストレスが蓄積せぬようコミュニケーションを図って、ホーム内で虐待が起きないように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に十分に時間を設けてグループホームの機能役割及び理念や利用料金について説明している。グループホーム利用のメリットだけでなくリスクも伝えることで家族からの不安や質問にも適切に説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活支援の中で入居者から表現される不満や苦情は、些細なものでも管理者への報告を義務付けている。臨時検討会を持ち意見や苦情に迅速に対応できる体制を整えている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>生活状況及び心身の変化については面会時に報告説明を行っている。面会の機会の少ない家族に対しては電話での報告説明を行っている。必要に応じて家族と面談を持ち、相談することも多い。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族面会時に、要望や御意見がないか暮らしぶりの報告を交えながら聞き取りしている。ケアプランの更新時等にも意見、不満、苦情がないか聞き取りを行っている。家族が言い出せにくいことなので、質問を工夫して聞きだせるようにしている。</p>	<p>○ 早期に家族会を立ち上げて、家族の意見をサービスに反映していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定例のミーティングでスタッフからの意見・提案を自由に表現できる時間を設けている。その場で意見に対する検討を行い意見が日々の支援並びに運営に反映されるよう流れと確立している。その時に理念と対応しているのか、確認も行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活状況に合わせ各勤務時間帯を設定し、試みてきた。現在の時間帯で落ちついているが、状況の変化に合わせた対応を考えている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設から現在まで職員の配置移動は一度も実施していない。移動がある際は引継ぎの時間を設ける等、対応していく。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ojit及びoffJTを活用して個々のスタッフのレベルに合わせた研修・学習会を実施している。ミーティングの際もプチ勉強会の時間を設けている。グループホーム連絡会主催の勉強会にも参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し管理者間の交流及び職員同士の交流も同時に行っている。また、更なるサービスの向上を目的に他のホーム見学も行っている。		他のホームに見学に行くことで、得るものが多いと考える。入居者と一緒にドライブを兼ねて、他施設の見学が行えたらよい交流の機会に成ると思う。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	『ストレス研修会』等に積極的に参加。また、個人によって感じるストレスがことなっているので、個人面談を行い思いを聞きだしている。そこで得たことはその職員と一緒に人的・物的環境の改善に取り組んでいる。	○	個人面談を行わなくとも、ミーティングの場などで自由にストレスについて話し合いがもてるような職場の雰囲気作りを行いたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面談並びに職員評価表を用いて職員個々の評価を行っている。同時に個人目標及び資格取得に付いて話し合い設定し、向上に向けてお互いを励ましている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との相談の中で、本人の性格を確認した後に、本人が緊張しない場(自宅等)での面談を実施している。そこで本人との会話やそれ以外の非言語表現からニーズを理解できるよう取り組んでいる。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談は十分に家族の話を聞ける時間を設けて行っている。そこで家族から話される日々のストレスや苦悩、今後の方向性を確認した上で、介護支援専門員とも協議しながら相談及び定期的な連絡に実施を進めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの相談内容並びに本人の心身の状況を把握した上でニーズに対応する数種のサービスの情報提供を行い本人・家族が自ら選択できるよう勤めている。あくまでも自己決定に基づいた支援を実施している。また、現任ケアマネジャーがいるときは連携しながら進めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用は時間や回数を限定することなく行っている。実施する際は本人の意志を確認しながら行っている。本人に合わせた対応で場になじんでもらえるよう人的・物的環境設定に配慮している。		精神的なストレスに留意しながら、無理強いせずに本人本位での体験利用等を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々がそれぞれの役割を持っており、調理に携わる、新聞を受け取る、お箸を配る、洗濯物をたたむ等、入居者と職員、また入居者同士が共にお互いを尊重しあい助け合い生活している。	○	沖縄の古くからの風習や年中行事など、『入居者が教える・伝える』役割も、引き出して行きたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人が抱えた課題を職員だけでなく、家族とも本人の思いを共有した上で、一緒に協力して支援を考えるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人との会話の中に『家族』の話題を取り入れるようにしている。家族には、ホーム入所をきっかけに関係が疎遠にならぬよう面会の促しを行い、本人との間を取り持つ配慮も心がけている。		入居者が不安で眠れないときが続いたときは、家族が協力して添い寝してくれるなど、協力を得られている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントで得た情報を元になじみの場・人をキーワードに会話を行っている。「〇〇さんに会いたい」等の求めがあれば面会及び外出支援も随時積極的に行っている。		ドライブに行く際も、「〇〇さんに会いたい」や懐かしい思い出の場所を巡るなど、目的を持った取り組みを現在行っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	場になじめない入居者や視力や聴力障害のために上手く馴染めない方には職員がさりげなく間を取り持つ支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も電話連絡などで身体状況及び認知症の諸症状の確認を行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時に本人の暮らしへの意向・希望を聞き取りしている。本人から確認が困難なときは、家族も含め「その人らしさ」を前提に検討を進めている。	○	今後は、地域包括センターとも情報交換を行い、地域での認知症支援を協議していきたい。本人・家族もカンファレンスに参加してもらう予定である。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に、本人および家族から今までの生活歴や、趣味・嗜好、性格等の情報を聞き取りしている。入所後もセンター方式アセスメントを導入し、調査を続けている最中である。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の関わりの中で本人の希望を確認しながら生活支援を行っている。また、食事・排泄・睡眠及びバイタル測定を行い健康状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を元に介護支援専門員と担当職員がカンファレンスを開催している。必要時には主治医の意見も確認し、自立支援に向けた介護計画の立案を行っている。		本人・家族及び職員以外にも、関わり・馴染みのある関係者にも範囲を広げたチーム作りを目指していく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、介護計画が本人に適しているかを確認している。心身の状況の変化に合わせ随時状況に適した計画の変更を行い、家族へも報告している。		毎朝の申し送り時に、臨時カンファレンスを行い、変化に対し迅速な対応・計画見直しを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で生じた心身の変化及び言動の変化を記録として残している。申し送りで情報の共有、カンファレンスにつなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族が安心して暮らしていけるよう必要に応じて外出・外泊の援助を行っている。また、希望時及び必要時には家族もホームに宿泊できる環境を整えている。	○	他のホームの支援も参考にして、多機能性を活かしてていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の学校より、職場体験を受け入れることで、入居者も地域社会との繋がりや役割意識を感じてもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを希望されている入居者はいないが、希望や必要性に応じ、他のサービスも含めて柔軟に対応していきたい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホーム見学の受け入れや事業内容の説明を行ってきた、現在、入居されている方に関して権利擁護等の必要性は無く、相談も行っていない。		今後は、地域包括センターとも情報交換を行い、地域での認知症支援を協議していきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定は本人・家族の意思で選択している。受診時には必要に応じて職員も同行し適切な健康管理が行えるよう医師からアドバイスを受けるなど協力を得ている。	○	体調不良時等にも、電話で相談できるよう、日常的な連携が図れるよう関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人・家族の意向を尊重しながら専門病院での受診を行っている。必要に応じて職員が同行、情報提供しながら適切なケアが受けられるよう支援している。症状の変化をホームで抱え込むことなく、早期の受診を心がけている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の訪問看護と契約を結び、定期的にホームへ訪問看護サービスを導入している。また、健康相談など随時電話相談できる体制を整えている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ホームでの生活状況及び認知症の周辺症状などの情報提供を行います。また、面会の機会を多く持ち心身の状況を把握、早期退院に対応できるよう主治医や医療相談員とも協議し、支援を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設にあたり、方針として終末期の受け入れは確実にやっていく。現在に至るまで重度化や終末期の対応はなかったが、入居相談時に、家族に対し終末期の意向を確認している。	○	重度化や終末期に対する具体的な対応指針を定めて行きながら対応に努めていく。その際は、個人のケアプランを重視していく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在に至るまで重度化や終末期の対応はなかったが、本人や家族の意向を大切に、本人の様態に適した対応・ケアが行えるのか当法人理事長(医師)の意見も参考に他のサービスの導入と主治医・看護師の連携を含め検討していく。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメント・ケアプラン等、現在の情報提供を行うと共に、今までの関わり・支援を元に、住み替えで生じてくる精神的不安やリスクを前もって予測し、情報提供等の協力を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人内勉強会『接遇について』を通して、言葉や態度といった接遇の大切さを学習した。また、個人情報保護の視点から、情報の守秘義務を徹底している。ハード面でも、直接外部・周辺から個室が見えないよう、樹木を植えている。</p>	<p>○</p> <p>個人情報保護法について、再度、勉強会を持ち、プライバシーの確保に努め尊厳を守って行きたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入浴や食事といった日常生活の場面や、余暇活動に関しても選択肢の中から本人が自己決定できる機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>新たな希望・要望に対しても柔軟に対応していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人らしい生活のリズムを継続できるように、また、その時の気持ち・希望も確認しながら生活の支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>着る衣類は、基本的に本人に準備してもらっている。支援の必要な入居者には、数種の中から選択してもらっている。外出時は、女性入居者にお化粧を楽しんでもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒に買い物に出掛け食材にあわせたメニュー作りを実施している。調理も2～3人の入居者と一緒に行っている。また、庭で採れた野菜類も食卓に並ぶことで調理に参加しない男性入居者とも食事の楽しみを共にしている。</p>	<p>○</p> <p>外食の機会も増やし、「おしゃれして出掛ける」や「普段食べれないもの」を楽しむきっかけにしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在、タバコを楽しまれる入居者はいないが、毎晩ビールを楽しまれている入居者は2人いる。ビールを買いに行くことも楽しみの一つになっている。日中の畑仕事がさらにビールの味を向上させる要因にもなっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を用いて各個人の排泄を把握している。トイレ誘導等も個人の習慣にあわせストレスにならないよう配慮した誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にあわせて入浴していただいている。支援の必要な方も出来るだけ残存能力を發揮してもらえよう時間も余裕を持って支援している。入浴しながらない方には、信頼されているスタッフが対応し、安心して入浴をしていただいている。	○	夜間入浴を希望する入居者がいないが、不眠がちな入居者に導眠の目的で、夕食後入浴を試みて行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	過去の生活習慣の情報も参考に、日中は活動的に、そして、夜は自然と就寝につけるよう、特に就寝時間を決めることなく、各々の生活リズムに合わせた支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「生きる力」を理念にも掲げ、どんな方でも生き生きする場面作りをスタッフで支援している。入居者が出来ることを職員が奪うことなく、簡単な作業であっても感謝の気持ち(役割意識)を伝えることを重要視している。		実際に、花木への散水や調理等が入居者の役割として確立されている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、財布を持たれて生活している。ドライブや買出し時にそれぞれ自由に使ってもらっている。自己管理が難しい方であっても、家族と職員が協力してお金の管理支援を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により、生まれた地域やなじみの場所へのドライブを頻繁に行っている。外出の要望がない方に対しても外食や買い物をお願いすることで出掛ける機会を作っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方への要望があった場合は、予め計画を立ててみんなで楽しめるよう取り組んでいる。無理のないよう、勤務調整を行い実現できるよう支援している。		本人の思い(意欲)が熱い(強い)うちに叶えられるよう、実行までに時間を掛けず、臨機応変かつ安全に対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があったときは、職員が電話対応の支援を行っている。聴力低下のある入居者のときは、職員が要望を確認し本人に変わって用件のやり取りを代行している。	○	今後、季節の頼り(年賀状・暑中見舞い等)を本人や職員が支援して出せるように企画したい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者及び来客者が訪れたときは、気兼ねなく過ごしてもらえるように談話室を用意している。面会時間は設定されているが、本人・家族の要望に合わせた対応を行っている。	○	面会者の少ない入居者には、会いたい方やなじみの方を本人や家族から聞き取りして、友人・知人との再会を支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設前から身体抑制に関する勉強会を行っている。現在に至るまで抑制の実施は無し。身体抑制以外にも言葉での抑制等についてもリスクがあることに気づき、日頃より職員同士で言葉使いを確認し合って注意している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、極力鍵を掛けずに対応を行っている。入居者が外に出ても直ぐ呼び止めることなく、見守り支援を行い行動を観察している。また、玄関先には椅子を配置し、職員と外を眺めながら過ごせる配慮を行っている。		入居者が外に出た後、どのような行動・行為をとるのか、観察することで、その人の求めていることを考察している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室で過ごされている入居者の様子を観察するときでも、扉を開けずに音や気配で行動を把握している。かぎ掛けを行う入居者もいるが、緊急な場合以外は強制的に開ける対応は取っていない。緊急時は容易に開けれる構造である		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の意向で、薬の自己管理を続けている入居者に対して、注意事項を毎日一緒に確認することと、服薬の確認を職員が行うことで、継続してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	生活上のリスクをひやりハット報告や申し送りで情報を共有し、予測されるリスクを職員全員で検討している。その情報を家族へも報告し未然に事故が発生しないよう対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないが、予測されるリスクがあるときは、そのリスクに対応する対処方法の訓練を行っている。対応の流れもマニュアルを整備している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行い、スタッフ・入居者共に防災・安全への意識付け及び避難誘導などを確認している。災害時には、併設老人保健施設より応援が得られる体制をとっている。	○	地域(近隣)の住民の方たちにも協力してもらえよう、自治会との協議を行いたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全面だけでなく健康面も含め、現在の状況から予測されるリスクを家族と話し合い、対応方法を検討している。その中で自立支援とリスク両方のメリット・デメリットを確認している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタル測定及び食事量・排泄・睡眠をチェックし日頃の状況を把握し、些細な変化があっても早期に発見できるよう観察しながら支援を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から発行される「薬の説明書」を毎回ファイルし内容を確認している。処方箋と本人の状態とを比較し、様態が気になるときは訪問看護や主治医に連絡が取れるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立を考えるときは、食物繊維が十分に取れるよう意識している。また常に水分が飲めるように飲物を準備している。外出や散歩などで自然に運動できることを心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、入居者個人で歯磨き等をおこなっているが、夜間は義歯洗浄をスタッフが代行し口腔ケアを行っている。虫歯の治療や義歯の調整が必要なときは歯科受診に繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量チェックを行い記録することで一人一人の栄養状態を把握している。病的に管理が必要な方には個別に尿量チェックや毎日の体重測定を行っている。		法人の管理栄養士とも連携して、栄養・カロリー等へのアドバイスを受けている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	流行の感染症の情報を元にホーム内での予防策や対応を毎回検討している。家族にも情報提供し持ち込まないことを重点においている。	○	県福祉部や広域保健所からの情報も元に、既存のマニュアルを生活の場面で活用できるように、見直しを図りたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週一回、冷蔵庫及び食品庫の整理日を決めて食品の点検を行っている。調理器具等も定期的に漂白・消毒し清潔・衛生管理を行っている。家族や本人が購入・持ち込んだ食品等に関しても、入居者と一緒に賞味期限の確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	観葉植物や椅子を配置し威圧感がないように配慮している。玄関もオープンにしているので、散歩途中の保育園児が遊びに来ることも日常的になっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の集うリビングからは、自家菜園が見渡せるほか風通しも良くゆったりくつろげる空間になっている。ホーム内に三箇所光庭を設けることで、光や雨風も感じられるようになっている。		琉球庭園を造園し、入居者と職員が共に草刈等を行っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や談話スペースに入居者それぞれの『お気に入りの場』がありそこでゆったり過ごしている。テラスにも椅子・テーブルを配置し、一人になれるスペースづくりを心がけている。		季節に合わせてコタツを準備したり、日当たりの良い場所に椅子を配置するなど、配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や日用品は家庭から使い慣れたものを持ってきてもらっている。部屋作りは本人の意向を最大限に尊重し、家族とスタッフが協力して整備している。	○	入居時に、自室入り口扉の小窓のガラス色を本人に決めてもらい新たな部屋に馴染めるように配慮している。今後は、家族の写真など、視覚からの刺激となるものも増やして行きたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	設計の段階から、自然の風を感じて暮らせるよう、窓の配置に工夫を凝らした建物になっており、風が通り抜ける構造になっている。極力エアコンを使わず季節を感じながら暮らせるよう換気にも十分気を使っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計段階から、高齢者にとっての使いやすさを考え、形にしてきた。入居者が生活することで、さらに使いやすい配置や設備も追加し自立に向けた整備を進行している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	記憶力の低下と視力の弱い方には、トイレや食事席まで床に道しるべを施して、一人でも安全に移動できるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	バリアフリーで自由に庭に出ることができ、散策路も整っている。畑で作物を育てることもでき、入居者が土に触れたり水撒きなどの作業を楽しんでいる。また、琉球庭園もあり、家族も楽しまれている。	○	入居者家族だけでなく、もっと地域の方にも開放していきたいと考えている。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○開所から一年半が経ち、やっとグループホームらしさが出てきたと実感している。グループホームひだまりの日々の取り組みとして、入居者に対し「その人らしく暮らせる」環境作りに力を入れている。物的環境だけでなく、周り全てが『環境』という考えの下に生活のリズム・家族や他入居者との人間関係等に配慮したケア及び支援をすることで少しでも認知症・行動障害の改善に努めたいと取り組んでいる。特に職員と入居者の相互関係に留意し「入居者を変えるのではなく周りが変わる」考えで、入居者一人ひとりの生活の質が向上するよう、今後も日々試行錯誤しながら入居者と共に暮らして行きたい。